

大阪探検隊

Osaka City Expeditionary party

「自転車歩行車道におけるサイン」 徳島市の事例

自転車歩行車道の最大の課題は、自転車と歩行者の錯綜による事故です。それぞれの走行空間を明確に区別し、みんなでルールを守ることが大切です。



そのためには「わかりやすいサイン」が重要であり、1964年に日本初の自転車道が設置されたと言われている徳島市に先進事例を見てきました。

特徴は、それぞれの空間をカラー舗装で視覚的に明示するとともに、物理的にも柵で分離したものです。

(写真右)

伊予街道（そごう前）

カラー舗装された自転車道が柵で分離



ピクトを多用したサインもわかりやすく、デザイン的にも優れた印象を受けました。



(写真左上)

交差点付近 サイン柱による分離の始まり

(写真左下)

サイン柱のピクト表示

(写真右上)

カラー舗装部のピクトサイン





(写真右) 植栽帯に設置された啓発看板

ただ悲しいことに、これだけの対策をしても自転車通行帯を歩行者が歩き、歩行者通行帯を自転車が勝手気ままに走っていました。自転車行政にも関係するものとして悩んでしまいます。



(写真上) 歩行者通行帯を走行する自転車